

## 病害虫発生予察情報予報第 4 号

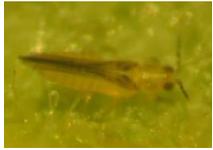
佐賀県農業技術防除センター

### I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名	8月の予想発生量		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注2)</sup>	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
水稲 (早期)	紋枯病 <sup>注3)</sup>	多	多	151~152	
	斑点米カメムシ類	多	多	169~170 187~190	
	1. 紋枯病 各圃場での発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに防除を行う。				
水稲 (早植え)	穂いもち	やや少	並	144~149	 斑点米カメムシ類
	紋枯病	多	多	151~153	
	トビイロウンカ	やや多	多	159~161	
	コブノメイガ	やや多	やや多	166~167	
	斑点米カメムシ類	多	多	169~170 187~190	
1. 斑点米カメムシ類 雑草地において斑点米カメムシ類の発生がやや多い。斑点米カメムシ類の増殖源となる水田周辺の雑草は水稲の出穂10日前までに除草を行う。 また、穂揃期から乳熟期の20回すくい取りでクモヘリカメムシが5頭以上認められた場合は直ちに防除を実施する。多発生時は穂揃い期とその7~10日後に防除を行う。少発生の場合は乳熟期(穂揃い期の約10日後)を中心に防除を行う。 2. 稲こうじ病 水和剤、粉剤を使用する場合には出穂20~10日前に中心に処理する。					
水稲 (普通期)	穂いもち	並	並	144~149	 トビイロウンカ
	紋枯病	多	多	151~153	
	白葉枯病	並	並	150~151	
	もみ枯細菌病	並	並	153~155	
	トビイロウンカ	やや多	多	159~161	
	コブノメイガ	やや多	多	166~167	
	フタオビコヤガ	やや多	多	172~173	
	斑点米カメムシ類	多	多	169~170 187~190	
1. トビイロウンカ 各圃場での発生状況を確認し、幼虫ふ化揃い期(防除適期)の防除を徹底する。 2. 稲こうじ病 水和剤・粉剤を使用する場合には出穂20~10日前に、粒剤の場合は出穂30~20日前を中心に処理する。					

水 稲 全 般	<p>1. 海外飛来性害虫（ウンカ類、コブノメイガ） 今後の飛来状況に注意し、圃場における発生状況を確認する（佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照）</p> <p>2. イネいもち病 BLASTAMIによる感染好適条件の出現状況を参考に、圃場での発生に注意する（佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照）。</p> <p>3. 薬剤散布の際の留意点 薬剤散布は、周辺の環境に十分配慮し行う。特に、ミツバチの被害を回避するため、養蜂農家に農薬の散布時期や散布時間等を予め伝達するなどの対応を取る。</p>
------------------	---

作物名	病虫害名	8月の予想発生量 <sup>注1)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注2)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
イ チ ゴ ( 育 苗 圃)	ハダニ類 <sup>注3)</sup>	多	やや多	208~209	 炭疽病による葉の汚斑型病斑
	うどんこ病	並	並	198~200	
	苗立枯症 (炭疽・疫病)	やや多	多	202~206	
	アブラムシ類	並	並	213~214	
<p>1. ハダニ類 一部の圃場の苗でハダニ類の寄生がみられる。育苗期の防除には薬剤抵抗性の発達が少ないとされる気門封鎖系薬剤を活用し、発生が見られたら5日間隔で複数回連続散布する。</p> <p>2. 炭疽病、疫病、萎黄病 発病株は早急に圃場外に持ち出し適切に処分し、周辺の苗への伝染を抑える。また、炭疽病については、一部の圃場で苗に汚斑型病斑がみられる圃場が認められるため、病斑が認められた株は感染が疑われる周囲の株ごと取り除き、定期的な薬剤防除を実施する。（平成29年7月28日付け発生予察注意報第1号参照）</p>					
ア ス パ ラ ガ ス	茎枯病	並	並	323~324	 ハダニ類
	褐斑病	やや少	少	324~325	
	斑点病	やや少	やや少	324	
	アザミウマ類	やや多	やや多	327	
	ハダニ類	多	多	327~328	
<p>1. アザミウマ類、ハダニ類 本虫の発生が平年に比べてやや多い。虫見板（約20×30cm）への払い落とし（擬葉部を2~3回叩く）により発生頭数を調査し、アザミウマ類の場合は、成虫が1ヶ所当たり3頭以上認められれば直ちに薬剤防除を行う。ハダニ類の場合は、寄生が認められれば直ちに薬剤防除を行う。 また、薬剤が十分かかるように不要な茎葉を整理して通風をよくするとともに、噴口を茎葉内に差し込む等してかけムラがないようにする。</p>					
ト キ マ ト ・ キ ユ ウ リ	<p>1. アザミウマ類、コナジラミ類及びこれらが媒介するウイルス（黄化えそ病、黄化葉巻病） 施設内外の雑草が、生息、増殖源となるため、除草を徹底する。これら害虫の施設への侵入を防ぐため、施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm程度）を設置するとともに、育苗期後半から定植時に粒剤を施用し、本圃初期の発生を防ぐ。</p>				

作物名	病害虫名	8月の予想発生量 <sup>注1)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注2)</sup>	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
カンキツ	かいよう病 <sup>注3)</sup>	並	並	222~224	 チャノキイロアザミウマ
	黒点病	並	少	220~222	
	ミカンハダニ	やや多	並	242~244	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	多	236~242	
	<b>1. ミカンサビダニ</b> 本虫による後期被害を防ぐために、8月中旬~9月上旬頃の防除を徹底する。 <b>2. アザミウマ類</b> チャノキイロアザミウマによる後期被害を防ぐために、8月中旬~9月上旬頃の防除を徹底する。園内及び園周囲の雑草は、ミカンキイロアザミウマやハナアザミウマ類の発生源となるので、着色期前までに除草を行う。 <b>3. ミカンハモグリガ・アゲハ</b> 幼木園や夏季剪定を終えたハウスみかん園では、ミカンハモグリガ、アゲハ対策として10~14日間隔で薬剤防除を実施する。				
ナシ	ナシヒメシクイ	多	多	301~304	 ブドウべと病
	ハダニ	やや多	少	306~309	
	<b>1. 夜蛾類</b> 被害を防止するため、忌避灯を点灯する時間及び点灯時の園内の明るさに注意する。 <b>2. スピードスプレーヤーによる薬剤散布</b> 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。				
ブドウ	べと病	やや少	並	337~339	 ブドウべと病
	褐斑病	やや少	並	339~340	
	<b>1. べと病</b> 降雨により発病が進展するので、降雨前の予防散布を徹底する。ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフフロアブル等）に対する耐性菌が発生しているため、本系統薬剤は本病の防除に使用しない。また、べと病の罹病葉は、伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。 <b>2. スピードスプレーヤーによる薬剤散布</b> 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。				
果樹全般	果樹カメムシ類	やや多	やや多	カキツ：248~251 ナシ：304~305 ブドウ：351	 チャバネアオカメムシ

作物名	病虫害名	8月の予想発生量 <sup>注1)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注2)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
茶	炭疽病 <sup>注3)</sup>	やや少	並	410~411	 クワシロカイガラムシ (雄繭)
	輪斑病	やや少	並	411	
	カンザワハダニ	多	多	415~416	
	クワシロカイガラムシ	多	多	422~423	
	チャノミドリヒメヨコバイ	多	並	420~421	
	チャノキイロアザミウマ	多	多	421~422	
	チャノコカクモンハマキ	多	多	418~420	
	チャノホソガ	多	多	417~418	
<p>1. <b>カンザワハダニ</b>            本年は梅雨期に密度が十分下がっていない園も見られる。盛夏期でも多発生する場合があるので、園内をよく観察し、低密度時期に防除を行う。</p> <p>2. <b>チャノコカクモンハマキ</b>            8月上~中旬頃が重点防除時期である。葉がつづられると防除効果があがりにくいため、適期（発蛾最盛期から7~10日後）に防除を行う。</p> <p>3. <b>チャノホソガ</b>            茶業試験場に設置したフェロモントラップへの誘殺数が増加している。圃場での発生に注意し秋芽萌芽期~開葉初期の防除を徹底する。</p> <p>4. <b>輪斑病（新梢枯死症）</b>            苞葉脱落期の薬剤防除を徹底する。</p> <p>5. <b>チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ</b>            秋の発生を抑えるため、秋芽萌芽期~開葉初期に防除を行う。多発生園では、さらに一週間後を目安に追加防除を行う。薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。</p> <p>6. <b>チャトゲコナジラミ</b>            7月下旬~8月中旬頃が防除適期である。園内の発生状況をよく観察して、成虫が見られなくなった頃（若齢幼虫期）に防除を徹底する。</p> <p>7. <b>クワシロカイガラムシ</b>            8月は成虫の発生時期であるため、園内の発生状況をよく観察し、9月の幼虫ふ化最盛期に防除を行う。</p>					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

注3) **病虫害名に網掛けをしたもの**については、予報の根拠とした内容を記載しています。

## 6月1日~8月31日の3か月間は農薬危害防止運動期間です。 農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

◎ほ場のみならず、公共施設内の植物、街路樹及び住宅地に近接する場所において農薬を使用する場合は、**農薬の飛散が周辺住民や子供等に健康被害を及ぼすことがないようにしましょう。**

◎農薬やその希釈液、残渣等はペットボトル、ガラス瓶等の飲食品の空容器等へ**移し替えたりせず、施錠された場所に保管する**等、保管管理を徹底しましょう。

◎土壌くん蒸剤を使用する場合は、農薬の容器に表示された使用上の注意事項等に従い、防護マスク等の防護装備の着用、施用直後の**ビニール等での被覆等を実行**等の安全確保を徹底しましょう。

## II. 予報の内容・根拠等について

### 予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。  
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

### 予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

### 防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

### 写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。  
 6 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

### 8月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 8 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 29 年 7 月 25 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 8 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (27.8℃)	50	高
降水量	30	40 (196.9 mm)	30	並

### Ⅲ. 8月の予報

#### 早期水稲（上場地域）

巡回調査 7月24日



巡回調査圃場の様子（早期水稲）

#### 1. 紋枯病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
発生株率3.7%（平年2.3%、前年1.7%）  
平年比：やや多（±～+） 前年比：やや多（±～+）
  - (2) 8月の気象予報  
気温は高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項  
特記事項を参照。

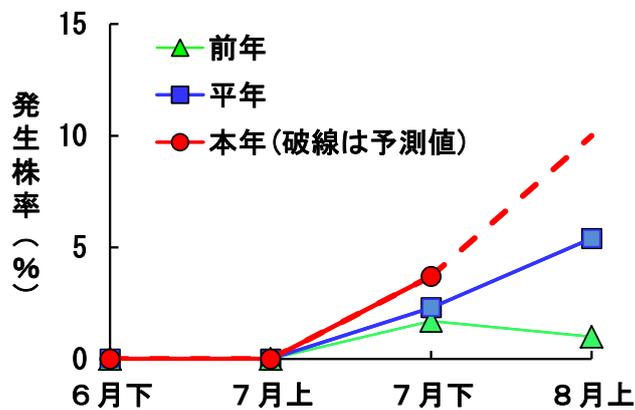


図1 早期水稲での紋枯病の発生推移

#### 2. 斑点米カメムシ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①本田での20回すくい取り調査（表1参照）  
平均捕獲頭数4.4頭（平年1.5頭、前年0.6頭）であり平年及び前年より多かった。〈+〉捕獲された種はクモヘリカメムシ及びアカスジカスミカメであった。
- 3) 防除上注意すべき事項  
水稲（早植え）の斑点米カメムシ類の特記事項参照。

表1 斑点米の原因となるカメムシ類の本田におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数(2017年7月24日)

調査地点	クモヘリカメムシ		ホソハラカメムシ		シラホシカメムシ類		アカスジカスミカメ		ミナミアオカメムシ
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	成虫
唐津市肥前町	6	3	0	0	0	0	0	4	0
〃	9	1	0	0	0	0	0	4	0
〃	1	0	0	0	0	0	0	1	0
〃	0	2	0	0	0	0	0	2	0
唐津市玄海町	0	0	0	0	0	0	0	3	0
〃	1	1	0	0	0	0	1	5	0
〃	0	0	0	0	0	0	0	1	0
〃	0	0	0	0	0	0	0	3	0
唐津市鎮西町	0	1	0	0	0	0	0	1	0
〃	1	0	0	0	0	0	0	0	0
〃	0	0	0	0	0	0	0	0	0
〃	0	0	0	0	0	0	0	2	0
<b>平均</b>	<b>1.5</b>	<b>0.7</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0.1</b>	<b>2.2</b>	<b>0</b>
本年	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0	0.2	0.5	0.3	0.0
前年	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0	0

# 水稲（山間早植え）

巡回調査 7月20日



巡回調査圃場の様子（早植え水稲）

## 1. 穂いもち

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）【葉いもち】  
発生株率0.3%（平年8.0%、前年7.0%）  
平年比：やや少（一～±） 前年比：やや少（一～±）
    - ②8月の気象予報  
並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 進展型病斑がみられる圃場では早急に防除を行う。
  - (2) 葉いもちの発生がみられるほ場では、穂ばらみ期の防除を徹底する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。

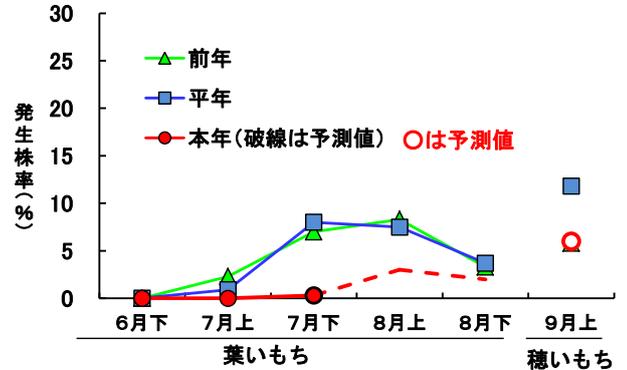


図1 山間早植え水稲でのいもち病の発生推移

## 2. 紋枯病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
発生株率0.3%（平年0.3%、前年0.3%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）
    - ②8月の気象予報  
気温が高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項  
本病の発生が見られる圃場では、病斑が上位の葉鞘に進展する前に防除を行う。

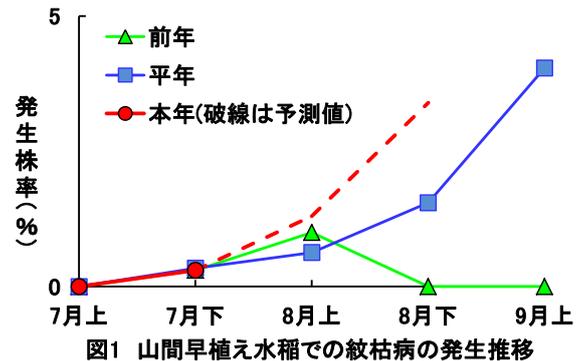


図1 山間早植え水稲での紋枯病の発生推移

## 3. トビイロウンカ

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
発生株率0%（平年0.4%、前年0%）  
平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）
    - ②巡回調査圃場以外で本種の定着を確認している。（±～+）
  - (2) これまでの飛来状況  
6月24日、25日、7月12日と7月19日に、嬉野市の予察灯において誘殺を確認しており、平年並の飛来であったと考えられる（表4）。（±）
  - (3) 8月の気象予報  
気温が高く、多発生の条件（+）

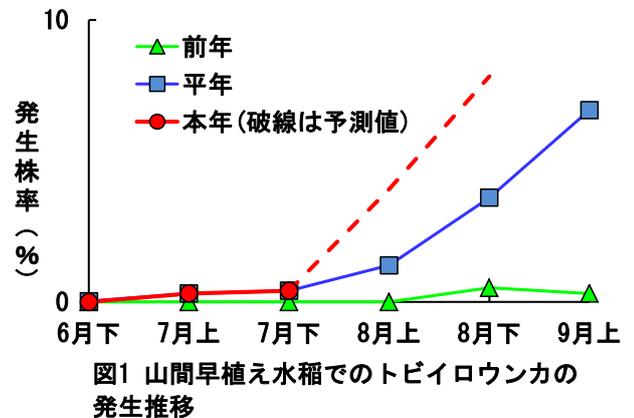


図1 山間早植え水稲でのトビイロウンカの発生推移

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生予想パターン図（p14、図3）を参考にして、必ず圃場における発生状況を調査し、幼虫ふ化揃い期（防除適期）に防除を徹底する。
- (2) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるように、十分量を丁寧に散布する。

## 4. コブノメイガ

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①巡回調査（図1参照）

発生株率0%（平年2.4%、前年5.5%）

平年比：やや少（一～±）前年比：やや少（一～±）

#### (2) これまでの飛来状況

佐賀市のフェロモントラップにおいて、6月26～7月10日に断続的な誘殺を確認しており、平年並の飛来であったと考えられる（表4）。〈±〉

#### (3) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

### 3) 防除上注意すべき事項

止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、発生予想パターン図（p14、図4）を参考に、必ず圃場における発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）に防除を実施する。

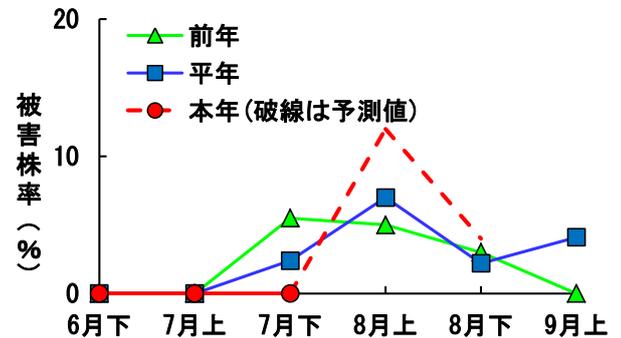


図1 山間早植え水稻でのコブノメイガの発生推移

## 5. 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミ

カメ、ミナミアオカメムシ等)

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 水田隣接のイネ科植物での捕虫網によるすくい取り調査（7月20～24日）

斑点米の原因となるカメムシ類のうち、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシの発生が平年よりやや多い（表2）。〈±～+〉

#### (2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項を参照。

表2 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数(2017年7月20~24日)

調査地点	場所	草種	クモハリカメムシ		ホハリカメムシ		シラホカメムシ類		アサシカスミカメ		ミミアカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
佐賀市嘉瀬町	空き地	エノコログサ類	1	0	2	0	0	0	1	0	0
唐津市鎮西町1	道端	ヒシバ、メシバ	1	0	3	8	0	0	66	19	0
唐津市鎮西町2	空き地	エノコログサ類	0	1	2	0	0	1	0	0	0
唐津市肥前町	道端	エノコログサ類	0	2	0	0	0	6	7	3	0
伊万里市東山代町	道端	エノコログサ類	0	0	2	5	0	0	0	2	0
多久市南多久町	空き地	エノコログサ類	1	4	2	1	0	0	23	0	1
武雄市橋町	空き地	エノコログサ類	14	8	0	0	2	0	33	33	0
嬉野市嬉野町	空き地	エノコログサ類	8	24	1	1	0	0	0	0	0
神埼市千代田町	空き地	エノコログサ類	27	38	2	0	0	2	5	1	0
吉野ヶ里町箱川	道端	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	3	1	0
みやき町白壁1	空き地	エノコログサ類	3	19	0	3	0	4	8	3	0
みやき町白壁2	空き地	ヒシバ	0	0	6	0	1	0	105	34	0
上峰町前牟田	道端	ヒシバ	0	0	0	0	0	0	13	2	0
白石町深浦	道端	エノコログサ類	10	4	1	0	0	0	0	0	0
白石町福富	空き地	エノコログサ類	5	0	0	0	0	0	0	0	0
白石町築切	道端	エノコログサ類	0	0	1	0	0	0	4	2	0
本年(平均)			4.4	6.3	1.4	1.1	0.2	0.8	16.8	6.3	0.1
前年(平均)			2.5	2.6	0.6	0.7	0.1	1.3	9.3	1.8	0.0
平年(過去10年の平均)			2.7	4.7	0.9	0.6	0.3	0.6	14.3	8.4	0.0

## 水稲(普通期水稲)

(巡回調査日: 7月19~25日)



巡回調査圃場の様子(普通期水稲)

### 1. 穂いもち

#### 1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 発生の現況

###### ①巡回調査(図1参照)【葉いもち】

発生株率3.8%(平年2.8%、前年8.2%)

平年比: 並(±) 前年比: やや少(一~±)

##### (2) 感染好適条件発生状況

県内及び隣接県の観測地点計11地点におけるBLASTAM(7月19日~25日)では、7月19日に2地点で感染準好適条件が出現した(表3)。<一~±>

##### (3) 8月の気象予報

並発生の条件(±)

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 進展型病斑がみられる圃場では早急に防除を行う。

(2) 葉いもちの発生がみられるほ場では、穂ばらみ期の防除を徹底する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。

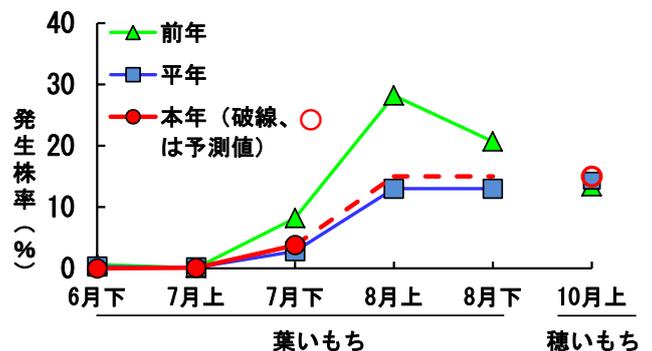


図1 普通期水稲でのいもち病の発生推移

表3 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

月日	佐賀県						福岡県			長崎県	
	唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	川副	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
7月19日	—	—	—	—	—	—	3	—	3	—	—
20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注) 1: 準好適条件 (前5日間の平均気温は20℃未満だが、湿潤が10時間以上)  
 2: 準好適条件 (前5日間の平均気温は25℃を越えているが、湿潤が10時間以上)  
 3: 準好適条件 (湿潤期間中の平均気温は15~25℃でないが、湿潤が10時間以上)  
 4: 準好適条件 (湿潤期間中の気温は比較的低いが、湿潤が10時間以上)  
 10: 好適条件 (湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)  
 —: 好適あるいは準好適条件の出現なし  
 ?: 判定不能

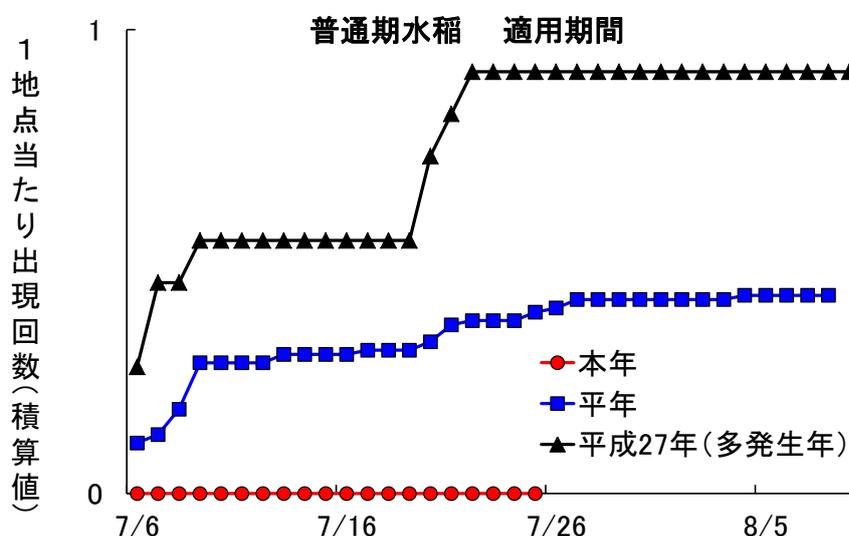


図2 BLASTAMによる感染好適条件の出現延回数 (6月16日移植の場合: 適用期間7月6日~8月9日)

## 2. 紋枯病

### 1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の実況

##### ① 巡回調査 (図1参照)

発生株率0% (平年0.0%、前年0%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

#### (2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

### 3) 防除上注意すべき事項

本病が発生している圃場では、病斑が上位葉の葉鞘に進展する時期 (液剤、粉剤の場合は出穂10~20日前を目安とする) に防除を行う。

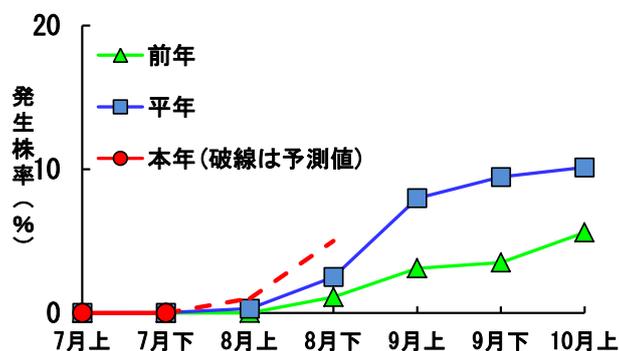


図1 普通期水稻での紋枯病の発生推移

### 3. 白葉枯病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の内容
  - (1) 発生の実況
    - ①巡回調査  
発生株率0%（平年0.0%、前年0%） 平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
    - (2) 8月の気象予報  
並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項  
台風等の強風雨後には多発生するので注意する。

### 4. もみ枯細菌病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 8月の気象予報  
並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項  
気象予報に留意し、開花期間中に降雨が予想される場合は、出穂前後3日の間にスターナ剤による防除を行う。

### 5. トビイロウンカ

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の実況
    - ①巡回調査(図1参照)  
発生株率0%（平年0.1%、前年0%）  
平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
    - ②巡回調査圃場以外で本種の定着を確認している。〈±～+〉
  - (2) これまでの飛来状況  
6月24日、25日、7月12日と7月19日に、嬉野市の予察灯において誘殺を確認しており、平年並の飛来であったと考えられる（p.13、表5）。〈±〉
  - (3) 8月の気象予報  
気温が高く、多発生の条件〈+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 発生予想パターン図（p14、図3）を参考にして、必ず圃場における発生状況を調査し、幼虫ふ化揃い期（防除適期）に防除を徹底する。
  - (2) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるように、十分量を丁寧に散布する。

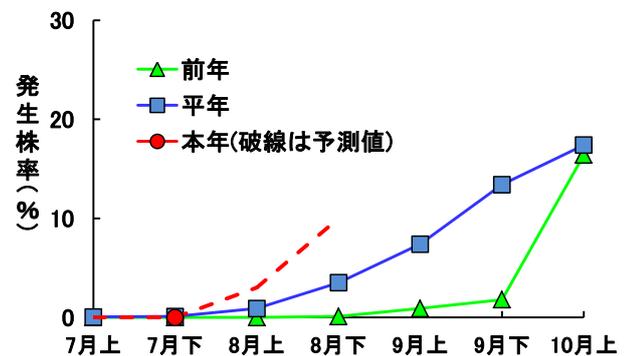


図1 普通期水稻でのトビイロウンカの発生推移

### 6. コブノメイガ

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率0.3% (平年2.3%、前年0.7%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: 並 (±)

(2) これまでの飛来状況

佐賀市のフェロモントラップにおいて、6月26~7月10日に断続的な誘殺を確認しており、平年並の飛来であったと考えられる (表5)。 (±)

(3) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、発生予想パターン図 (p14、図4) を参考に、圃場における発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後 (幼虫ふ化揃い期) に防除を実施する。

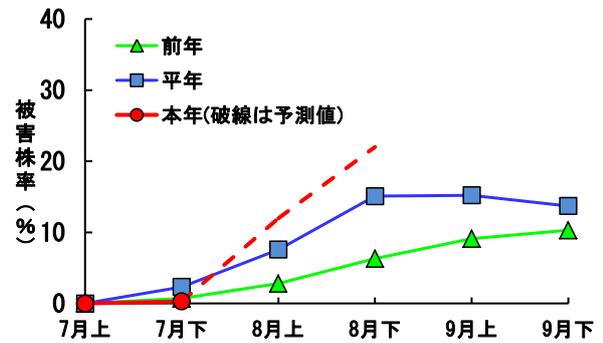


図1 普通期水稻でのコブノメイガの発生推移

## 7. フタオビコヤガ(イネアオムシ)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査

発生株率0.1% (平年0.1%、前年0%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

②本年の予察灯及びフェロモントラップ調査

誘殺数は、平年よりやや少なく前年並 (表4) (一~±)

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

8月中~下旬頃に圃場における発生状況を確認し、上位葉に多数の幼虫が認められる場合には防除を実施する。

表4 フタオビコヤガのトラップ誘殺状況(佐賀市川副町, 農業試験研究センター調査)

月	半旬	予察灯			フェロモントラップ		
		平成29年	平年	前年	平成29年	平年	前年
6月	1	0	2	0	5	36	25
	2	0	2	0	4	34	10
	3	0	2	0	0	23	4
	4	0	1	0	0	10	1
	5	0	0	0	0	3	1
	6	0	1	0	0	6	2
7月	1	0	1	0	0	11	1
	2	0	2	0	0	15	1
	3	0	1	0	0	10	2
	4		2	0	0	15	1
	5		11	0		35	2
	6		28	0		87	3
8月	1		19	0		74	11
	2		77	0		137	12
	3		111	0		249	4
	4		126	0		237	2
	5		71	3		180	0
	6		32	4		180	5
9月	1		26	5		100	1
	2		20	4		64	5

注) 平年値は、平成19年~28年の平均。

# 8. 斑点米カメムシ類

水稻（早植え）の斑点米カメムシ類の項参照。

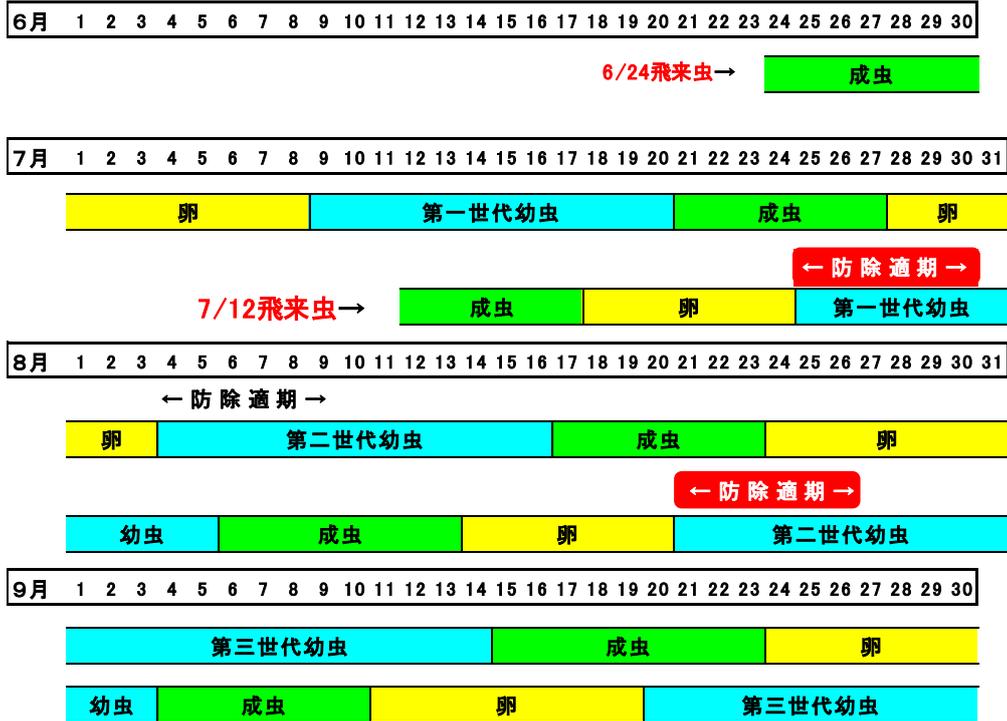
表5 ウンカ類とコブノメイガの誘殺状況（平成29年）

月	日	トビウロンカ						セジロウンカ						コブノメイガ						
		佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県			佐賀県				長崎県		
		佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	6	0	0	0	0	0	8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	25日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	欠測	0	0	0	欠測	欠測	欠測	0	0	0	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	10	3	0	0	0	0	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1)コブノメイガ：神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。  
長崎県のデータは、長崎県病害虫防除所提供。

### 図3 トビイロウンカの発生予想パターン

(平成29年7月18日、佐賀県農業技術防除センター作成)



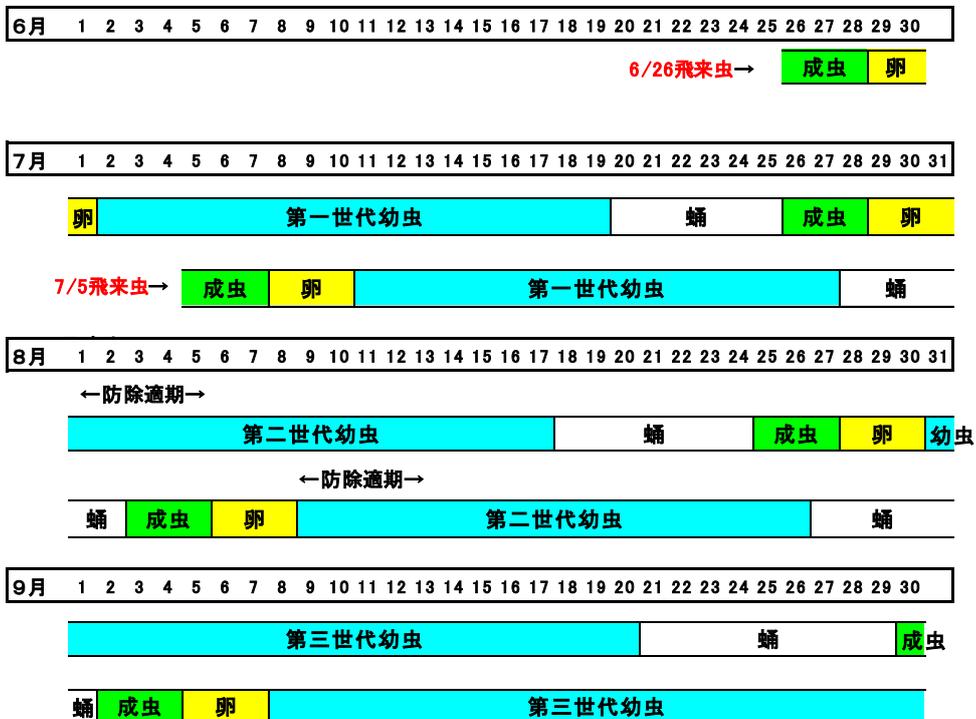
(注)

(1) 6月24日及び7月12日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(7月17日までは今年のデータ、7月18日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。

(2) 防除適期は、幼虫ふ化揃い期である。

### 図4 コブノメイガの発生予想パターン

(平成29年7月18日作成、佐賀県農業技術防除センター作成)



(注)

(1) 6月26日及び7月5日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(7月17日までは今年のデータ、7月18日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。

(2) 防除適期は、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)である。

# イチゴ（育苗圃）

（巡回調査 11 圃場、苗を調査  
調査日：7月20日～24日）



巡回調査圃場の様子

## 1. ハダニ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年より多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
発生株率：8.4%（平年7.1%、前年8.7%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）
    - ②8月の気象予報  
気温が高く、多発生の条件（+）
  - (2) 防除上注意すべき事項
    - (1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。
    - (2) その他については特記事項を参照。

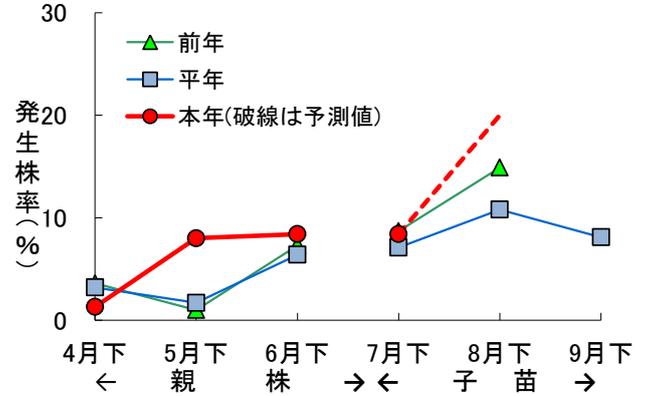


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

## 2. うどんこ病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
発生株率：11.6%（平年15.9%、前年2.7%）  
平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）
    - ②8月の気象予報  
並発生の条件（±）
  - (2) 防除上注意すべき事項
    - (1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

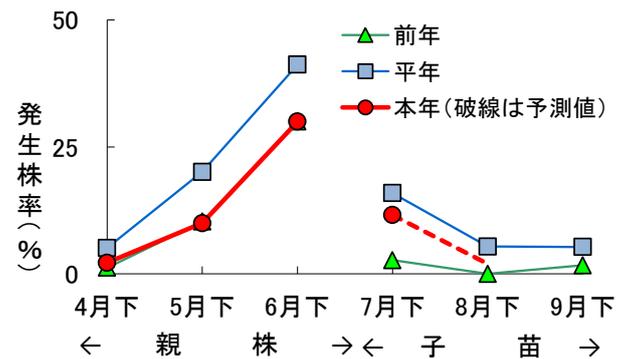


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

## 3. 苗立枯症（炭疽病・疫病）

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 子苗での発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
立枯症の発生株率：0%（平年0%、前年0%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）  
炭疽病の汚斑型病斑の発生株率：1.5%（平年0%、前年0%）  
平年比：多（+） 前年比：多（+）
    - ②8月の気象予報  
並発生の条件（±）
  - (2) 防除上注意すべき事項
    - (1) 特記事項を参照。

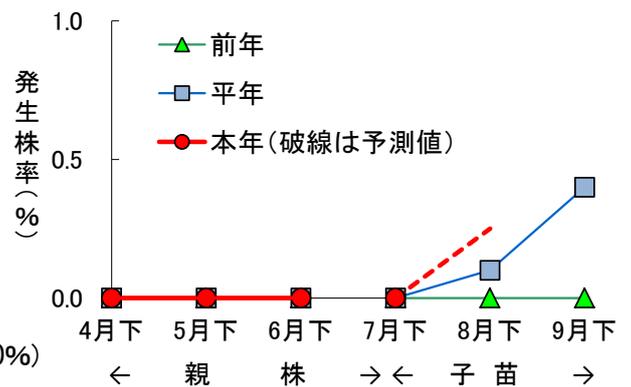


図1 イチゴ炭疽病・疫病の発生推移

# アスパラガス

巡回調査 (8 圃場)  
調査日 : 7 月 20 日~24 日



巡回調査圃場の様子

## 1. 褐斑病

1) 予報の内容  
発生量 : 平年よりやや少ない (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 : 1.3% (平年 2.9%、前年 7.5%)

平年比 : やや少 (一~±) 前年比 : 少 (一)

(2) 8月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 降雨時以外は施設開口部を開放し通風を図るとともに、  
3週間間隔を目安として発生前から薬剤防除を実施する

(前年多発生圃場及び既発生圃場、降雨日が続く場合は間隔を短縮)。

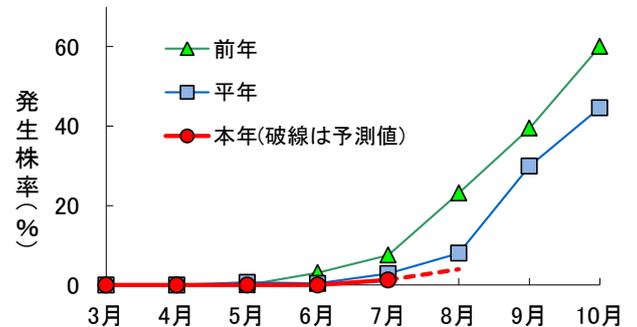


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

## 2. アザミウマ類

1) 予報の内容  
発生量 : 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 : 25.0% (平年 17.4%、前年 16.3%)

平年比 : やや多 (±~+) 前年比 : やや多 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

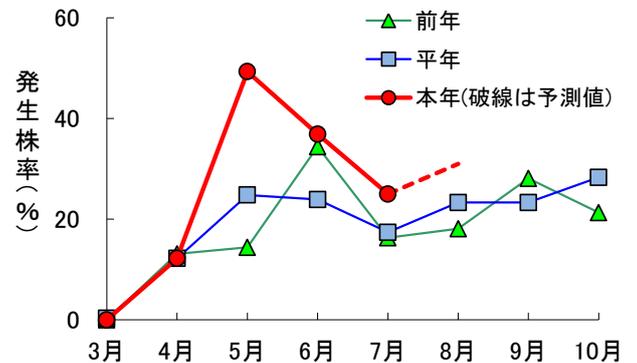


図1 アザミウマ類のアスパラガスでの発生推移

## 3. ハダニ類

1) 予報の内容  
発生量 : 平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率 : 6.3% (平年3.6%、前年0%)

平年比 : やや多 (±~+) 前年比 : 多 (十)

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (十)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

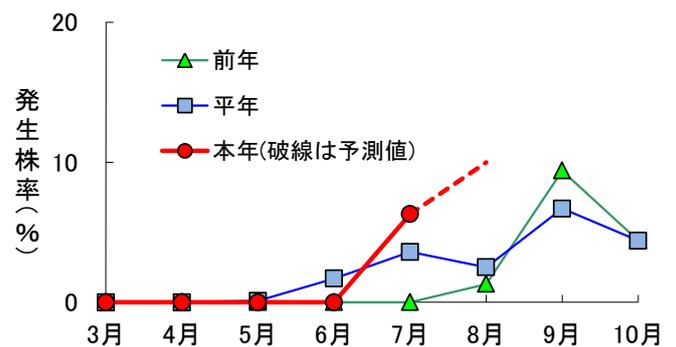


図1 ハダニ類のアスパラガスでの発生推移

# カンキツ

巡回調査 (8 圃場)  
調査日：7 月 20 日～21 日



巡回調査圃場の様子

## 1. かいよう病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並 (前年並)
- 2) 予報の根拠  
(1) 発生の現況

- ①巡回調査 (図 1、2 参照)  
発生葉率：0% (平年 0.2%、前年 0%)  
平年比：やや少 (―～±) 前年比：並 (±)  
発生果率：0% (平年 0.0%、前年 0%)  
平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

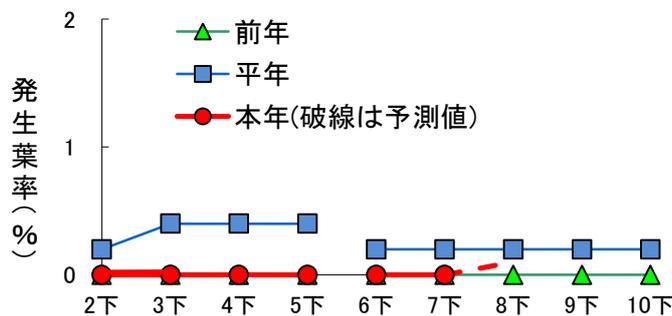


図 1 カンキツかいよう病 (葉) の発生推移  
(注：5 月下旬までは旧葉、6 月以降は新葉を調査)

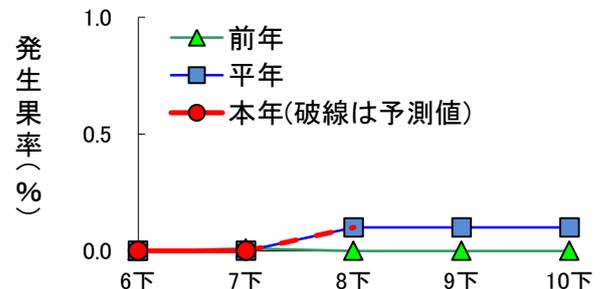


図 2 カンキツかいよう病 (果実) の発生推移

- (2) 8 月の気象予報  
並発生の条件 (±)

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 前年発生園や風当たりが強い園、罹病性品種 (ネーブル、はるみ等) の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園 (幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等) では、無機銅水和剤 (クレフノン 200 倍加用) で定期的に防除を行う。散布間隔の目安は 20～25 日とする。
- (2) 無機銅水和剤にマンゼブ水和剤を混用すると無機銅水和剤の防除効果が低下するので混用を控える。
- (3) 発病した枝や葉は伝染源となるため除去し、処分する。ただし、強剪定は枝を遅くまで伸長させ、本病にかかりやすい期間を長くするため行わない。
- (4) 台風の襲来等強風雨が予想される場合は、襲来 7 日前～前日までに必ず防除を行う。

## 2. 黒点病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並 (前年より少ない)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

- ①巡回調査 (図 1 参照)  
発生果率：2.8% (平年 6.5%、前年 27.8%)  
平年比：並 (±) 前年比：少 (―)

- (2) 8 月の気象予報  
並発生の条件 (±)

### 3) 防除上注意すべき事項

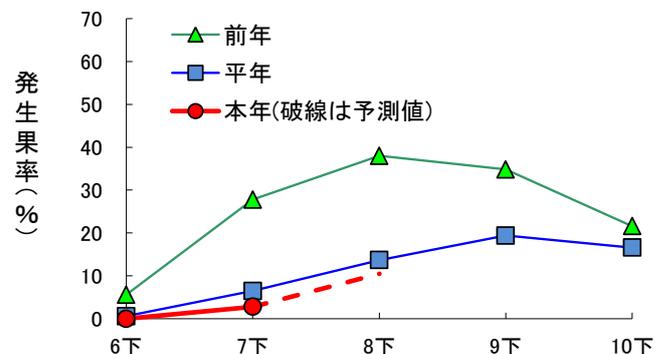


図 1 カンキツ黒点病の発生推移

- (1) マンゼブ水和剤散布後の次回散布時期は、積算降雨量が 200～250mm に達した時点を目安とする。ただし、同雨量に達しない場合でも、散布後 1 ヶ月を目途に次回の散布を行う。
- (2) 枯れ枝は伝染源となるため除去し、処分する。

### 3. ミカンハダニ

#### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 発生の現況

###### ①巡回調査（図1参照）

発生葉率：0.3%（平年 2.0%、前年 5.0%）

平年比：並（±） 前年比：少（-）

##### (2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 低密度時（寄生葉率 30%未滿または 1 葉当たりの雌成虫の数が 0.5～1 頭）からの防除を徹底する。
- (2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤は年 1 回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。
- (3) マシン油乳剤を 7 月以降に使用すると果実腐敗の発生を助長したり、糖度の低下を招く場合があるので使用しない。

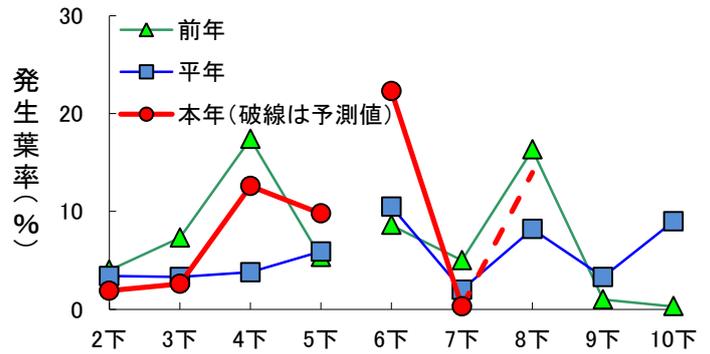


図1 ミカンハダニの発生推移  
(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

### 4. チャノキイロアザミウマ

#### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

#### 2) 予報の根拠

##### (1) 発生の現況

###### ①巡回調査（図1参照）

発生果率：0.4%（平年 1.3%、前年 0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

###### ②黄色粘着トラップ（図2参照）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

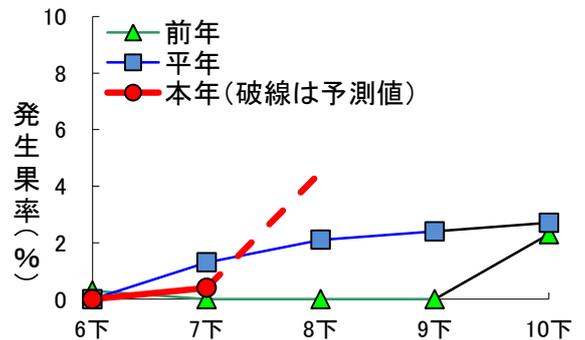


図1 チャノキイロアザミウマの発生推移

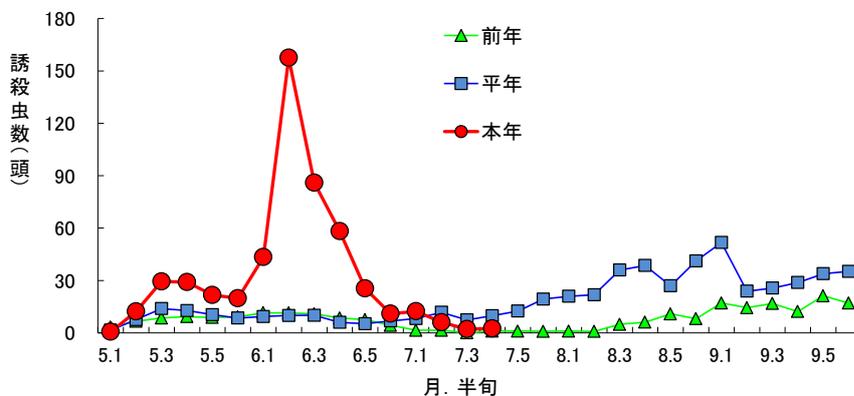


図2 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺数の推移  
(小城市、果樹試験場調査)

#### (2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

#### 3) 防除上注意すべき事項

##### (1) 特記事項参照。

# ナシ

巡回調査（6圃場）  
調査日：7月19日



巡回調査圃場の様子

## 1. ナシヒメシクイ

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①フェロモントラップ（図1参照）

平年比：やや多（±～+） 前年比：やや多（±～+）

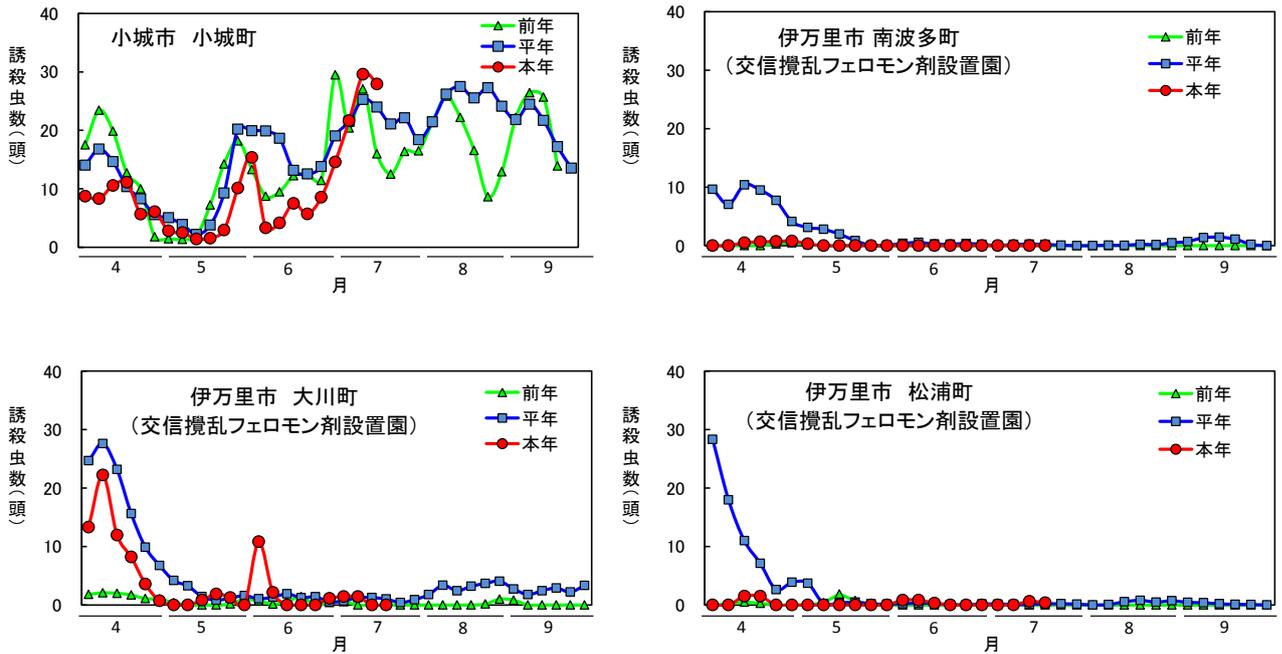


図1 フェロモントラップによるナシヒメシクイの誘殺数の推移  
(果樹試験場、西松浦農業改良普及センター調査)

##### ②サクラに設置したフェロモントラップ（表1参照）

サクラに設置しているフェロモントラップ（伊万里市3ヶ所）での、7月第1半旬～第4半旬までの誘殺数は前年よりやや少ない（-～±）。

表1 サクラに設置したフェロモントラップにおけるナシヒメシクイの誘殺数（頭）  
(西松浦農業改良普及センター調査) ※7月1～4半旬の合計値

地点名	H26年	H27年	H28年	H29年
伊万里市 南波多町	1	2	0	0
伊万里市 大川町	15	7	26	16
伊万里市 新天町	94	41	49	39
計	110	50	75	55

### (2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 使用する薬剤の選定（収穫前使用日数や汚れ）には十分注意し、収穫まで7～10日間隔で薬剤散布を行う。
- (2) 交信攪乱フェロモン資材設置圃場においても、10～14日間隔で薬剤防除を行う。

(3) 防除薬剤として、合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド系薬剤を使用するが、ネオニコチノイド系薬剤については、ハマキムシ類に対する防除効果が劣るので注意する。

## 2. ハダニ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より少ない）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の実況

##### ①巡回調査（図1参照）

発生葉率：0.8%（平年1.9%、前年2.3%）

平年比：やや少（-~±） 前年比：やや少（-~±）

#### (2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) ハダニ類は高温乾燥で急増するので、低密度時（発生葉率10%未満または1葉当たりの雌成虫数0.5頭以下）に防除を行う。

(2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年使用した殺ダニ剤は使用しない。

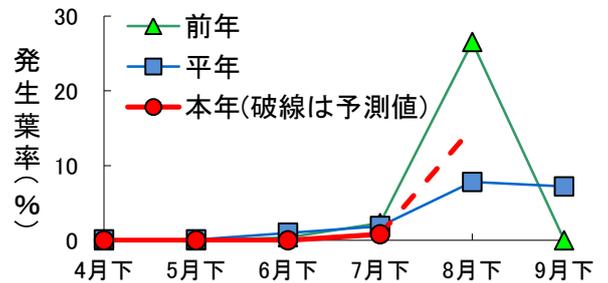


図1 ハダニ類のナシでの発生推移

## ブドウ

巡回調査（6圃場）

調査日：7月19日~21日

## 1. ベと病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の実況

##### ①巡回調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年9.2%、前年3.3%）

平年比：やや少（-~±） 前年比：並（±）

#### (2) 8月の気象予報

並発生の条件（±）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除効果をもとめるために、棚面の上からも散布する。

(2) その他については、特記事項を参照する。



巡回調査圃場の様子

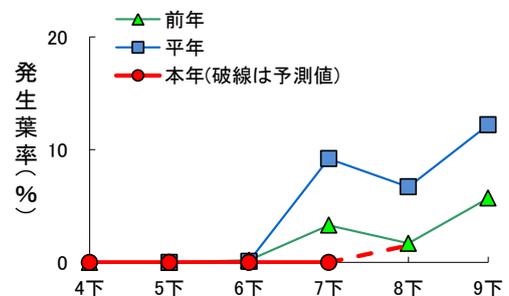


図1 ブドウべと病の発生推移

## 果樹全般

## 1. カメムシ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の実況

##### ①予察灯（図1参照）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±~+）

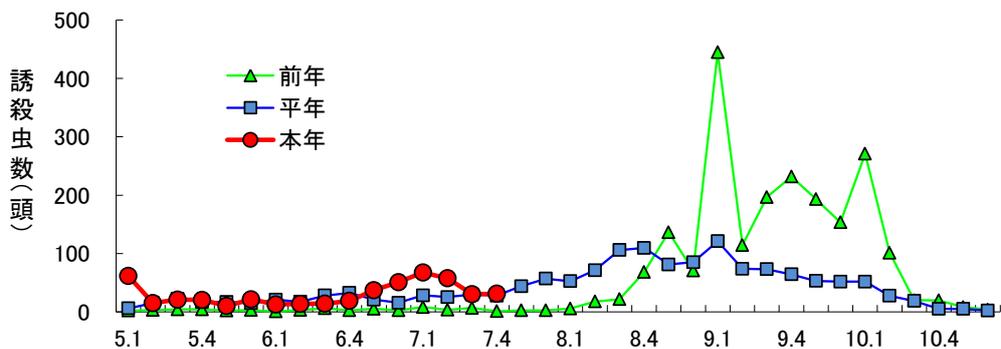


図1 予察灯（佐賀市、小城市、太良町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

②フェロモントラップ（図2参照）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：やや多（±〜+）

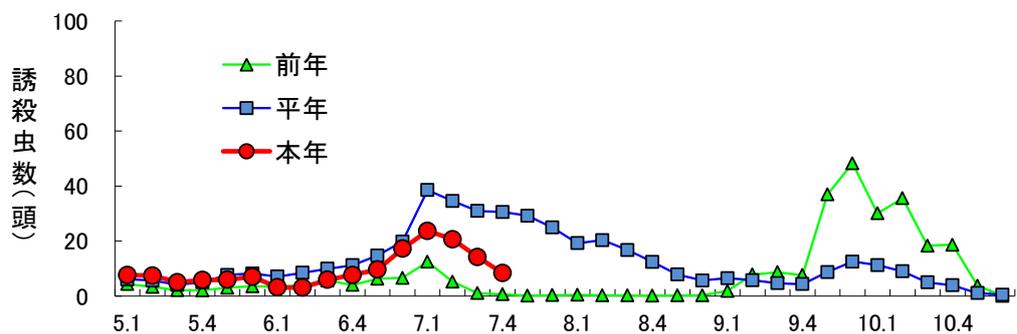


図2 フェロモントラップ（小城市、鹿島市、伊万里市、唐津市浜玉町、唐津市鎮西町、基山町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

③ヒノキ毬果における寄生数（図3、表1参照、7月19〜24日調査）

成幼虫数平均：13.4頭（平年8.1頭、前年0.8頭） 平年比：やや多（±〜+） 前年比：多（+）

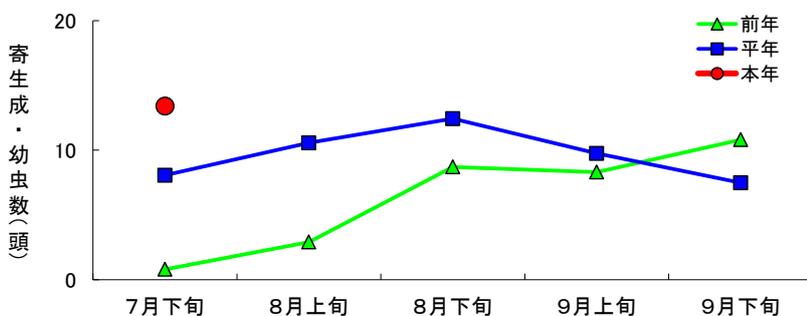


図3 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生数の推移

④ヒノキ毬果における口針鞘数（図4、表1参照、7月19〜24日調査）

口針鞘数平均：1.8本/果（平年1.1本、前年0.1本） 平年比：並（±） 前年比：やや多（±〜+）

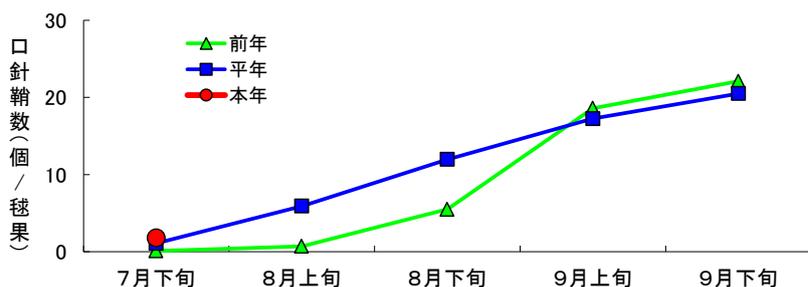


図4 果樹カメムシ類によるヒノキ毬果の口針鞘数の推移

表1 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数及び口針鞘数

No.	調査地	ヒノキ毬果における寄生状況 1)			離脱予想時期 (各調査日から算出)	口針鞘数 2)	ヒノキ毬果 3) 着果程度
		成虫	幼虫	合計		7月 下旬	
1	上峰町	8	12	20	9月1半旬頃～	3.7	やや少
2	神埼市	8	0	8	9月3半旬頃～	0.4	やや多
3	小城市	7	25	32	9月1半旬頃～	2.9	やや多
4	多久市	5	1	6	9月1半旬頃～	2.3	やや多
5	唐津市 1	5	12	17	9月2半旬頃～	2.1	多
6	唐津市 2	11	4	15	9月3半旬頃～	0.5	多
7	伊万里市 1	3	3	6	9月3半旬頃～	0	中
8	伊万里市 2	2	3	5	9月2半旬頃～	0.8	やや多
9	伊万里市 3	7	11	18	9月2半旬頃～	0.6	中
10	白石町	9	4	13	9月2半旬頃～	0.8	多
11	鹿島市 1	5	4	9	9月3半旬頃～	0.0	やや多
12	鹿島市 2	4	4	8	9月3半旬頃～	0	やや多
13	鹿島市 3	9	9	18	8月5半旬頃～	4.8	中
14	太良町 1	6	10	16	9月1半旬頃～	2.5	中
15	太良町 2	5	5	10	9月2半旬頃～	1.7	中
	平均	6.3	0.3	13.4	9月3半旬頃～	1.5	
	平年	-	-	8.1	-	1.1	
	前年(H28年)	0.3	0.6	0.8	-	0.1	

1)たたき落としによる調査

2)口針鞘数が1果当たり25本を超えるとヒノキ毬果が餌として不適となりカメムシがヒノキ毬果より離脱する傾向

3)ヒノキ毬果着果程度:福岡総農試の達観調査法(一部改変)に基づいて調査

- ・極少:ほとんど結実が見あたらない
- ・少:梢頭部にわずかに結実
- ・やや少:梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在
- ・中:梢頭部から中央部付近にかけて結実
- ・やや多:梢頭部から最下部にかけて全面的に結実した樹と全面的に結実しない樹が混在
- ・多:梢頭部から最下部にかけて全面的に結実
- ・極多:梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実

## (2)8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

## 3)防除上注意すべき事項

- (1)飛来時期及び飛来量は園によって異なるため、園内をこまめに見回り、発生状況を確認する。
- (2)果樹カメムシ類は、樹高の高い樹木に一旦飛来し、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないように剪定をする。
- (3)合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖(リサーチェンス)生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。
- (4)県内各調査地点における誘殺状況の推移については、佐賀県農業技術防除センターHPの「病害虫データ情報」を参照する。



巡回調査圃場の様子 (茶)

## 1. 炭疽病

- 1) 予報の内容  
発生量: 平年よりやや少ない (前年並)
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況 (図1参照)
    - ① 発生葉数: 1.9枚/m<sup>2</sup> (平年4.9枚、前年3.0枚)  
平年比: やや少 (一~±) 前年比: 並 (±)
    - ② 8月の気象予報  
降水量が平年並であり、並発生の条件 (±)
  - (2) 8月の気象予報  
降水量が平年並であり、並発生の条件 (±)
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 開葉初期の防除を徹底する。

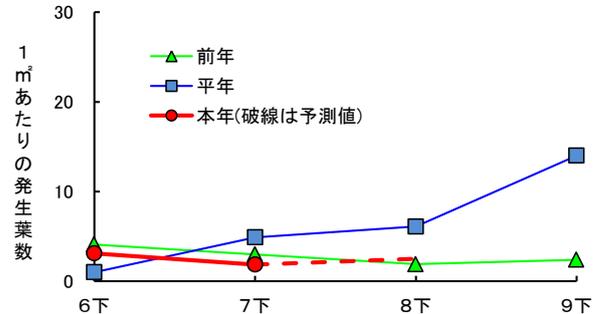


図1 炭疽病の発生葉数の推移

## 2. カンザワハダニ

- 1) 予報の内容  
発生量: 平年より多い (前年より多い)
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況 (図1参照)
    - ① 巡回調査 (図1参照)  
発生葉率 0.6% (平年0.5%、前年0%)  
平年比: 並 (±) 前年比: やや多 (±~+)
    - ② 一部の圃場では発生を確認している。 (+)
  - (2) 8月の気象予報  
平年に比べ、気温が高く降水量は並と予想され、多発生の条件 (+)
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 特記事項参照。

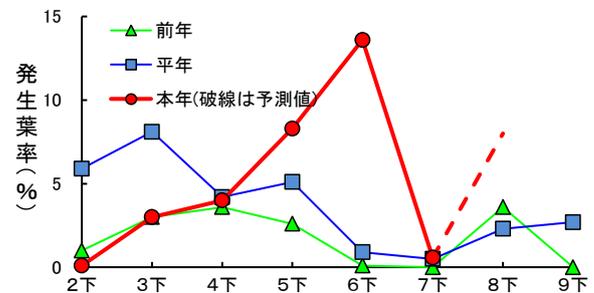


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

## 3. クワシロカイガラムシ

- 1) 予報の内容  
発生量: 平年より多い (前年より多い)
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況 (図1参照)  
発生株率: 16.4% (平年8.8%、前年2.1%)  
平年比: やや多 (±~+) 前年比: 多 (±)
  - (2) 気象条件  
幼虫孵化最盛期の7月中下旬の降水量が少なく、また、気象予報によれば、8月は平年に比べ気温が高く降水量は並と予想され、多発生の条件 (+)
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 特記事項参照。

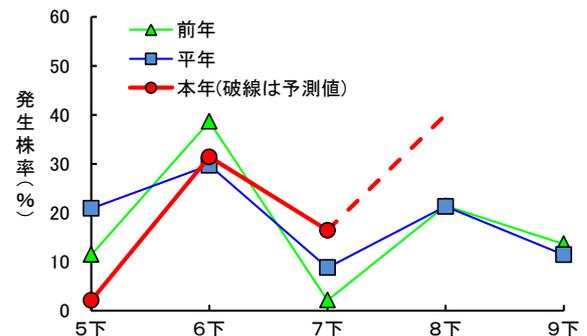


図1 クワシロカイガラムシの茶での発生

## 4. チャノミドリヒメヨコバイ

- 1) 予報の内容  
発生量: 平年より多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

虫数：2.9頭/4ヶ所 (平年2.2頭、前年1.4頭)  
 平年比：並 (±) 前年比：やや多 (±~+)

(2) 8月の気象予報

平年に比べ、気温が高く降水量は並と予想され、  
 多発生の条件 (十)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

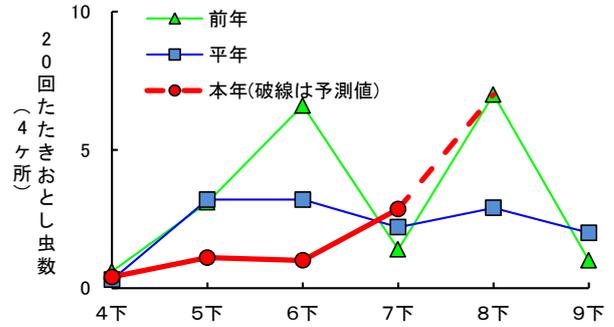


図1 チャノドリヒメヨコバイの茶での発生推移

## 5. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1、2参照)

①虫数：12.7頭/4ヶ所 (平年14.0頭、前年15.7頭)  
 平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

②吸引粘着トラップ

平年比：多い (十) 前年比：多い (十)

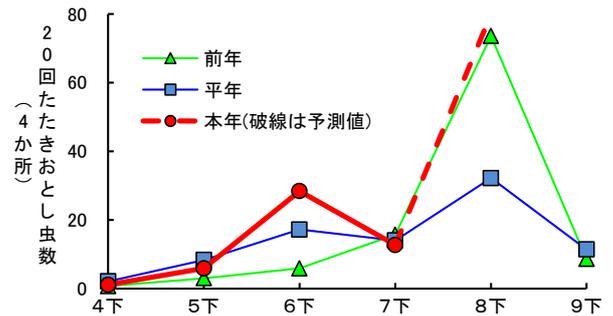


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

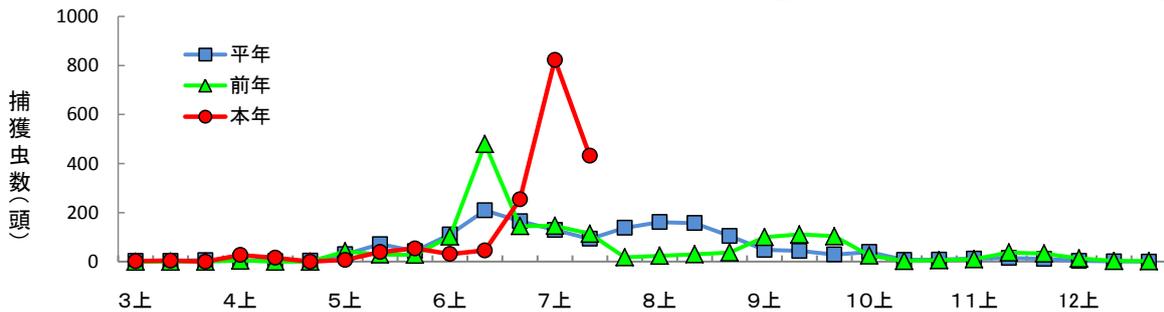


図2 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの捕獲虫数の推移 (嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

(2) 8月の気象予報

平年に比べ、気温が高く降水量は並と予想され、多発生の条件 (十)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

## 7. チャノココクモンハマキ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1、2参照)

①被害葉数：0.7枚/m<sup>2</sup> (平年2.5枚、前年0.1枚)  
 平年比：やや少 (一~±) 前年比：並 (±)

②7月中下旬 (第二世代発生期) に被害を受けた圃場が認められた。 (十)

③フェロモントラップ

平年比：やや少 (一~±) 前年比：やや少 (一~十)

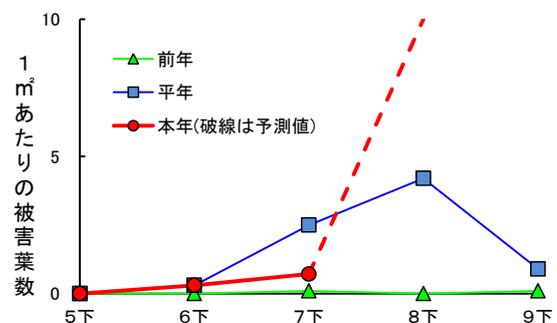


図1 チャノココクモンハマキの被害葉数の推移

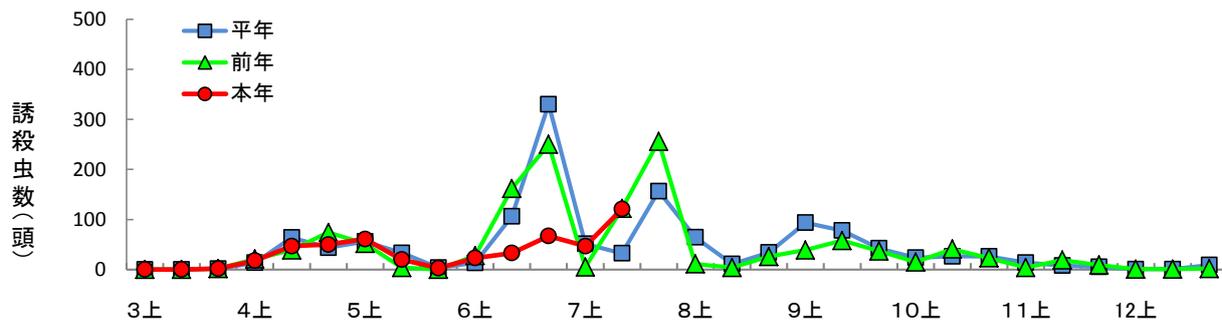


図2 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの誘殺数の推移  
(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

(2) 8月の気象予報

平年に比べ、気温が高く降水量は並と予想され、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

## 7. チャノホソガ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1、2参照)

①被害葉数：0.7枚/m<sup>2</sup> (平年5.3枚、前年2.0枚)

平年比：やや少〈-〜±〉 前年比：並〈±〉

②フェロモントラップ

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

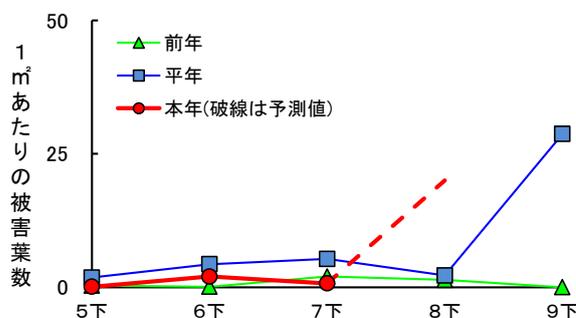


図1 チャノホソガの被害葉数の推移

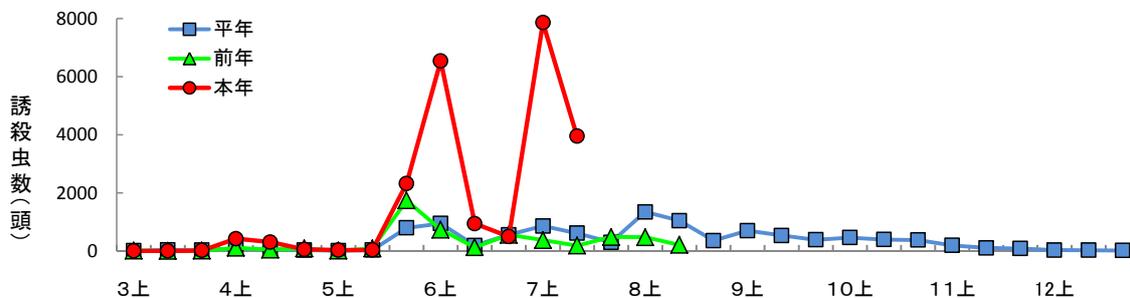


図2 フェロモントラップによるチャノホソガの誘殺数の推移  
(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

(2) 8月の気象予報

平年に比べ、気温が高く降水量は並と予想され、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088  
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085  
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp